

第12期 第3回 府中市美術館運営協議会 次第

令和6年2月10日（土）午後2時～  
府中市美術館 会議室

1 開会

2 府中市美術館運営協議会会長挨拶

3 府中市美術館館長挨拶

4 議題

(1) 諮問事項「府中市美術館の利用拡大 事業・施設のあり方」について

(2) その他

5 閉会

[配布資料等]

・資料 第1回・第2回 府中市美術館運営協議会 意見抽出

## 第1回・第2回 府中市美術館運営協議会 意見抽出

- ・第1回運営協議会 令和5（2023）年2月5日（日）
- ・第2回運営協議会 令和5（2023）年7月30日（日）

### ① 【今回の答申について】

- ・「利用拡大」とは、単に入館者増ではなく、府中市美術館のことを知ってもらい、親しみを持ってもらうにはどうすればいいかといったこと。【第1回】
- ・事業の拡充や充実、施設の整備、広報など、幅広い視点を含む。【第1回】
- ・今回の諮問には美術館の設備についても意見を求められている。老朽化、改修、利用者対応という視点でも議論を深めたい。【第2回】
- ・今回の利用拡大という諮問は、数ではなく質で考えていくべきではないか。【第2回】

### ② 【府中市美術館への現状認識】

#### 全般的イメージ

- ・いろいろな立場の方がアートを見にくるなかで、府中市美術館では本物のアートを提示し続けるという活動が、どんどん充実してきている。【第1回】
- ・こんな素晴らしい施設が府中市にあるのであれば、もっとたくさんの人に知ってほしい。【第1回】
- ・企画展、市民ギャラリー、カフェと、市民がいっぱい利用していて、地元に着した雰囲気が出ていると、感じている。【第1回】
- ・感受性を開発する場、感受性を触発される場は、人間にとって重要であり、美術館はそういう場所。府中市が美術館を持っていることは、住環境として素晴らしいし、皆さんで盛り上げていけたら嬉しい。【第1回】

#### 作品収集活動

- ・作品購入のためのまとまった基金があることは、府中市の文化への取り組みとして立派だ。【第2回】

#### 展覧会活動

- ・府中市美術館の解説パネルは、すごくわかりやすく書いてある。それは、美術を頭で解

積するのではなく、目と心で見るとうまく誘導しているということ。その点に気をやりながら、話を進めていきたい。【第1回】

- ・展覧会活動についても、所蔵品をうまく活用しながら、バランスの取れた活動をしている。【第2回】
- ・従来の美術史からはなかなか評価されない作家を取り上げた企画展は、立派な活動。【第2回】
- ・府中に関係のある作家や作品の展覧会は、府中市民にとって説得力がある。【第2回】

### 教育普及活動

- ・小中学生を対象とした美術鑑賞教室も、美術館へ行ったという経験は重要で、それを継続しているのはすごいこと。【第2回】
- ・小中学生の無料パス「府中っ子学びパスポート」は、非常にありがたい。【第2回】
- ・府中っ子学びのパスポート、美術鑑賞教室、図工美術の教員の研究組織との連携など、学校を対象とした事業も充実している。【第2回】

### その他

- ・市民ギャラリーも、多くの方が利用しているのはすごい。【第2回】
- ・学芸員の採用や後継者の育成の面でも、将来を見据えているという印象を得た。【第2回】。
- ・学校でもポスター掲示やチラシ配布などの取り組みをしている。【第2回】
- ・美術館から学校に向けての広報活動は、盛んにやってもらっている。【第2回】
- ・「ぱれたん」は、府中市美術館のキャラクターとしてすごく定着している。【第2回】

### ③ 【美術館に期待するもの・美術館の意義】

- ・美術館で、ただ作品を見て素晴らしいと思うだけでなく、精神的な繋がりとか日本的な価値観とかを伝えていくこともできる。【第1回】
- ・美術館に興味がない人もいるなか、どうすれば社会の中に美術館があって良かったと思ってもらえるのか、考えていきたい。【第1回】
- ・フランスなどに比べ、日本では作家への支援が弱い。制作する意欲のある人は日本にもたくさんいるので、その助けとなるような意見が出せればと思う。【第1回】
- ・小学生のころに、美術館の市民ギャラリーに作品が展示されたことが、今でも作品を制作することに繋がっている。【第1回】
- ・子どものころに美術館にきた子たちが、大学生になって博物館実習できたり、就職して仕事関係で関わったり、美術館との関係が将来に続くことがある。【第2回】

- ・子どものときに美術館に触れるのはすごく大事なこと。【第2回】
- ・将来的に人口が減少し社会構造が変化していくなか、若い人を学校とか会社といった組織の中だけで育てるのではなく、社会全体でどう育てていくのかという視点が必要になる。社会教育施設である美術館は、それを担っていくことになるのではないかと。【第2回】

#### ④【府中市美術館の将来像や改善点】

##### 作品収集活動

- ・100年後も愛され続ける作品コレクションの形成を目指してもらいたい。【第1回】

##### 展覧会活動

- ・「ぱれたん」など子ども対象の展覧会や江戸絵画展のような毎年行う企画があり、その一方で新しいジャンルの開拓もしていければ、いいかと思う。【第2回】
- ・子どもが楽しめるというだけでなく、親も楽しめる・親が楽しめるという企画があれば、親が子供を積極的に美術館に連れて行くようになるのではないかと。【第2回】
- ・小学校低学年向けの企画、テーマパーク風の企画、工作中心の企画の場合は、見ること（作品鑑賞）をどう取り入れるのか、気になる。【第2回】
- ・ローティーン、ハイティーン向けには、どういう企画ができるのだろうか。【第2回】

##### 設備

- ・今後は大規模改修で長期休館するかもしれないが、休館中も美術館の存在が忘れられないように、注意していただきたい。【第1回】
- ・収蔵庫、図書室、駐車場など、今後手狭になっていく設備は拡大していく必要がある。【第1回】

##### その他

- ・都心の大規模美術館から地方都市の小規模美術館までさまざまあるが、府中にあった在り方を考えていきたい。【第1回】
- ・コロナ禍が落ち着いてきたなか、また市民に愛されたくさんの人が集まる場に戻っていったら、嬉しい。【第1回】
- ・市民ギャラリーも、作家を巻き込むなど、作品発表にもっと気軽に使ってもらえる場所にしていきたい。【第1回】
- ・市民ギャラリーでの展覧会、出品内容などはアーカイブ化しているのか？ぜひアーカイブ化してもらいたい。【第2回】

##### 広報活動

- ・まだまだ美術館の企画を知らない方もいるので、PRをもっとやればいい。何か仕掛けをSNSとかでやれば、ヒットするのでは。【第2回】
- ・府中駅的美術館行バス停など交通拠点に、美術館の案内があるといい。【第2回】
- ・市内の商店など多くの場所に美術館のポスターが掲示してあれば、人々の関心も引く。【第2回】

#### 付帯設備（カフェ、ショップ、市民ギャラリーほか）

- ・カフェは、メニューも楽しく居心地もいい。これもアピールポイントや利用者増に繋がっていく。【第1回】
- ・市民ギャラリーでの小中学生の作品展示を見に来た子どもや親御さんが、美術館に興味を持つようになれば、これも利用拡大に繋がっていく。【第1回】
- ・「ぱれたん」グッズなど、美術館のオリジナルグッズをもっと展開してもいいのではないか。【第2回】

#### 地域連携

- ・ケヤキ並木でのイベントなどの場で美術や美術館に関わってもらえれば、それが美術館へ行こうということに、繋がるのではないか。【第1回】
- ・府中駅周辺など市内のイベントで美術館と連携して行くことがあってもいい。【第2回】

#### その他

- ・開館時間の延長や夜間開館は効果があるのか？ → 美術館の立地条件や開催中の企画内容による。夕陽をアピールポイントにしている美術館では、閉館時間を日没時間に合わせた事例もある。夜間開館は定着することが重要。人件費や光熱費など経費面の課題もある。【第2回】
- ・美術館のファン、美術館のサポーターを作ることが重要。【第2回】